

次期経営計画策定に向けた スケジュール等について

1 次期経営計画策定に向けたスケジュール

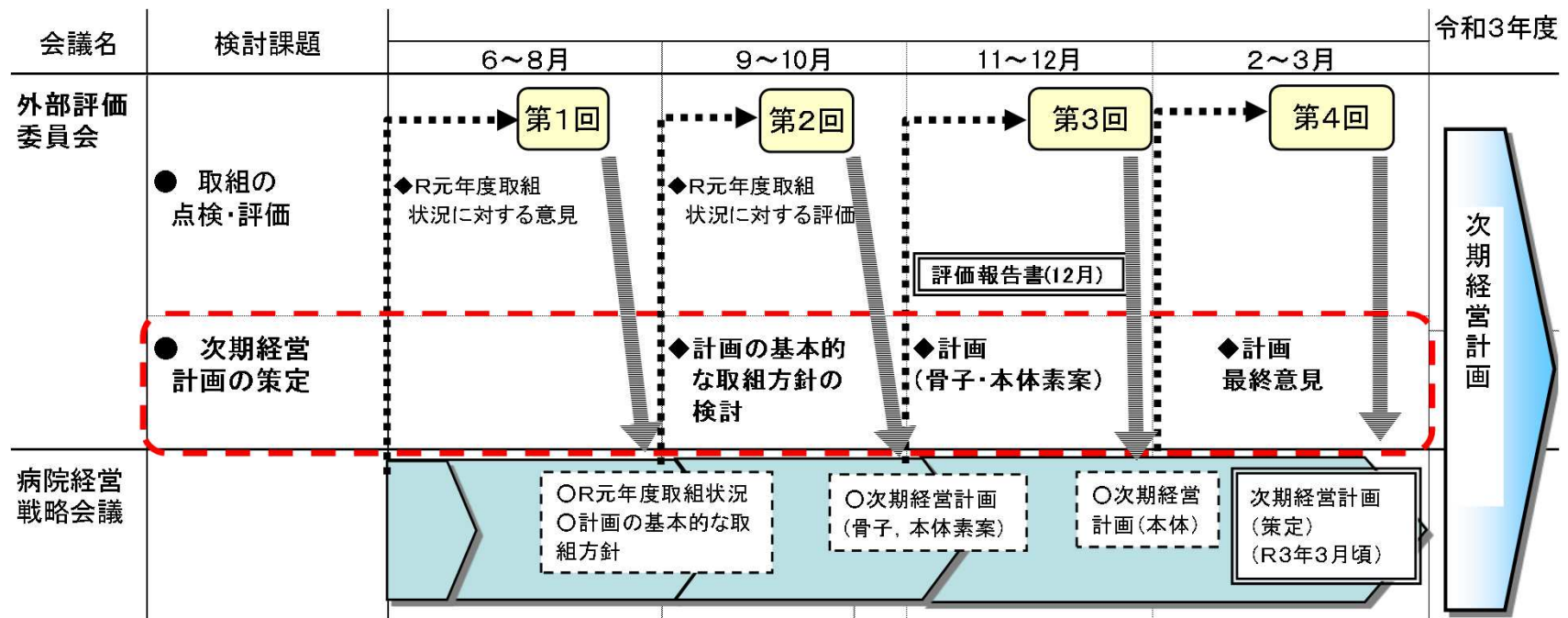
○これまでの経緯

- ・平成8年に「病院事業経営健全化計画」(第1次病院事業計画)を策定
- ・現計画(第6次経営計画)は、これまでの成果を踏まえて、目指すべき中期的な方向性と、外部環境の変化を見据えた取組方策や目標を設定

第1次経営計画	H 8 ~ H 11	<ul style="list-style-type: none"> ●診療報酬改定等により、収支予測と現実が大きく乖離 ○各年度「アクションプログラム」を策定し、改善に取り組む。
第2次経営計画	H 12 ~ H 16	<ul style="list-style-type: none"> ●資金収支均衡の目標を達成(H12除く。) ○総合周産期母子医療センター運営開始[H12], 緩和ケア支援センター開設[H16](広島), 皮膚科・泌尿器科設置[H14](安芸津), 高額医療機器導入など, 医療機能を強化
第3次経営計画	H 17 ~ H 20 (H19中間見直し)	<ul style="list-style-type: none"> ●資金収支の黒字を継続 ○瀬戸田, 神石三和病院の地元移管[H21.4~]を決定 ○臨床腫瘍科設置[H18], 成育医療センター開設[H20](広島)などによる機能強化
地方公営企業法の全部適用		《病院事業管理者設置による経営機能の強化》
第4次経営計画	H 21 ~ H 25 (H23中間見直し)	<ul style="list-style-type: none"> ●平成22年度に経常収支の黒字を達成。それ以降経常収支の黒字を継続 ○PDCAサイクルによる取組 ・病院経営戦略会議 (H21~毎月1回, 病院事業管理者と各病院長等で構成) ・広島県病院経営外部評価委員会 (H22~毎年3回, 外部有識者(6名)で構成)
第5次経営計画	H 26 ~ H 28	<ul style="list-style-type: none"> ●会計制度見直しによる財務諸表の変更。消費税増税等の影響による経営状況の悪化。 ○脳心臓血管センター開設, NICU増床(広島), 地域包括ケア病床の設置(安芸津)など, 医療機能の強化
第6次経営計画	H 29 ~ R 2	<ul style="list-style-type: none"> ●9年連続黒字を達成した一方で、資金収支は悪化。(令和元年度決算は赤字となる見込み) ○がんゲノム検査開始(広島), ドクターカー運用開始(広島), 地域包括ケア病床の増床(安芸津)

R 3 ~ R 6 (予定) 第7次経営計画の策定

■ 広島県病院経営外部評価委員会と次期経営計画策定に関するスケジュール



2 現行計画の概要

I 計画期間

平成29年度から令和2年度まで

II 目指す姿と方向性

【広島病院】

- 県民の健康を支え、切れ目ない医療を提供することを目的とした広島県保健医療計画の中に位置づけられた病院としての役割を果たす。
- 重要度や緊急性が高く、難易度の高い疾患である高度急性期を中心とした医療を担う。

【安芸津病院】

- 広島県保健医療計画の中に位置付けられた、二次救急輪番病院などの役割を果たす。
- 地域住民の健康と暮らしを支えるため、予防医療の強化や在宅療養支援の充実など、地域包括ケアの仕組みの構築に積極的に貢献する病院。

III 第6次計画における重点的取組

【広島病院】

- 医療機能の強化・患者満足度の向上
- 地域完結型医療への取組
- 業務改善・経営基盤の強化
- 医療を担う人材の確保・育成

【安芸津病院】

- 地域包括ケア構築への貢献
- 地域の医療資源の維持
- 業務改善・経営基盤の強化

3 評価と次期計画

①外部評価委員会評価の概要（平成30年度評価）

（広島病院）

- 救急患者受入体制の強化，高度医療の取組，がんゲノム医療の開始など，広島県の基幹病院として医療水準の向上をけん引する役割を果たしていることを評価
- TQMや5S活動に多くの職員が参加するなど，改善活動が組織文化として定着しつつあり，医療安全や医療の質の向上の基盤が整備されていると評価
- 他の病院との連携や医療機能の役割分担を図る中で，広島県の医療を牽引する「県立広島病院らしさ」を県民や県下の医療機関等に示すための方法について工夫がなされることを期待
- 継続して黒字を達成しているものの，資金面では赤字収支が続いており，資金収支の改善を図ることが今後の経営課題の一つであると指摘

（安芸津病院）

- 高齢化が進行する地域において，限られた医療資源の中で，地域に根差した取組を積極的に実施しており，地域包括ケアシステムの構築における拠点病院の在り方を示そうとしている点を評価
- 中山間の高齢化先行，人口減少地域において，医療機能の確保と経営安定の両立は多くの困難を伴うが，そのような困難を乗り越えるモデルを模索し，その結果を県内の同様な地域に示すことを期待
- 収支は大幅な赤字となっており，豪雨災害からの復旧の後には，機能発揮を伴う利用者の拡大や費用の合理化などの取組を推進して，経常収支の改善を図ることが急務

②第6次経営計画策定以降、次期(第7次)経営計画に影響を与える要因(主なもの)

ア 広島県保健医療計画 (H30.3)

県内どこに住んでいても、生涯にわたっていきいきと暮らすことができるよう、質が高く安心できる保健医療提供体制を地域包括ケアシステムと一体的に構築することを基本理念とした平成30年度から令和5年度の6年計画。

イ 診療報酬改定の影響 (H30.4)

平成30年度診療報酬の改定率は、本体+0.55%、薬価等▲1.74%。全体で▲1.19%の改定。

ウ 公立・公的医療機関等に係る改革プラン等の再検証【再検証要請対象医療機関公表】 (R元. 9)

広島県内で13病院が対象医療機関として公表された。

エ 消費税率引上げ【8% → 10%】 (R元. 10)

オ 診療報酬改定の影響 (R2.4)

令和2年度診療報酬の改定率は、本体+0.55%、薬価等▲1.01%。全体で▲0.46%の改定。

カ 次期広島県総合計画 (R2策定予定)

これまでの取組における課題や、今後予想される課題に立ち向かうため、20~30年後のあるべき姿を構想したうえで、次の10年間(~2030年)における目指す姿を描き、進むべき方向性を示す。

キ 新公立病院改革ガイドライン (未定)

総務省において、今夏を目途に公立病院改革ガイドラインが改定される予定となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、改定が先延ばしされる見通し。